

はじめに

平成26年度から初めての事業や改めて取り組まれた事業が二つある。その一つは、認知症、知的障害、精神障害などで金銭管理ができない人の生活を支援する「京極町生活サポートセンター」が、平成26年10月に創設された。これは成年後見制度を活用して、社会的弱者の権利を擁護する事業である。3年間、京極町以外の山麓6か町村と黒松内町の住民を対象に支援することになり、半年の間に数名の法人後見するに至り、今後は益々、対象者数の増えてくることが予想される。

二つ目は、福祉サービスに関する苦情解決への取り組みである。従来から苦情相談解決実施要綱に基づいて第三者委員を置いて実施されることになっていたが、実質的にほとんど機能してこなかった。平成26年度より、苦情相談担当者会議を設け、隔月開催の定例会議と苦情があった場合の臨時会議を開催し、第三者委員を改めて選任し、苦情受付の「ご意見箱」を設置した。今年度は、福祉サービスやサービス提供のあり方などについて8件の苦情相談を受け付け、その解決に向けての会議が開催された。また、利用者や地域の皆様より苦情を受け付ける中で、職員が今までの業務を見直し、利用者への処遇改善にもつながった。

京極町のボランティア活動の組織化については、社協がなかなか着手できなかった分野であるが、ここ数年、ボランティアセンターを軸に組織化が進められている。高齢者の閉じこもり予防や元気づくりを目的とするサロン活動が活発になり、その活動を支えるボランティアが増えてきた。この他に、老人ホームのボランティアの育成や除雪ボランティアイベントによるボランティア体験者を増やししながらボランティア活動の組織化を目指している。

地域包括支援センターは介護予防を主な課題として地域包括ケアシステムづくりを目標に活動してきた。京極町は保健・医療・福祉の連携が十分に取られており、地域包括支援センターのケア会議を中心に多くの機関の関わりによって困難事例の解決をしてきた。これまで専門職で個別事例の解決をしてきたが、今後は地域住民を巻き込んだ地域ケアによる課題解決が期待されている。

今年度より介護保険が改正され、要支援者が新総合事業に組み込まれ、その新総合事業実施主体が市町村になった。地域住民は自ら健康づくりや介護予防に取り組むことが求められている。住民の主体的な取り組みの基盤づくりは社協に求められている。町民が安心して暮らせる町づくりのために行政と町社協が密接な連携が重要である。

法人運営係

重点目標

- 1 共同募金運動、賛助会員制度を推進し、住民の参加と協力による自主財源確保への取り組みを行う
- 2 広報活動の充実により、住民が社協活動を知ることができる

1. 重点目標に関して

目標達成に至る具体的な取り組みは実施できなかったが、目標に掲げたことで今後取り組むべき課題はみえてきた。共同募金、会費制度については、形式的ではなく、理解してもらった上で協力を得なければ、減少をとめることはできない。地域福祉実践計画策定の過程で寄付金や会費、募金の目的や使途が広報誌だけでは十分に伝わっていない現状を知ることができたので、今後は新たな情報発信の手段を考え実施していく。

2. 役員会の開催

26年度は役員改選の実施、地域福祉実践計画の策定、「臨時職員就業規程」と「未来へつなぐ夢基金設置規程」の2つの新規程制定、など例年以上に審議事項の多い年であった。そのため理事会については実施回数が例年より1回増えている。

名称	回数	役員出席率
理事会	7	78.5%
評議員会	3	61.3%
監事会	4	100%

3. 役職員研修の実施

1) 役員研修の実施

例年通りの研修、大会に参加している。視察研修では、就労継続支援事業所の取り組みについて直接見聞し、障がい者支援分野での京極町の課題などについて考えた。今後の事業展開の参考となる重要な機会となった。

研修名	月 日	参加人数
後志社会福祉大会 (喜茂別町)	8月27日	4
北海道社会福祉大会(札幌市)	9月4日	8
法人役員専門研修(札幌市) 道立精神保健福祉センター、就 労継続支援「れ・ぴゅーる」視 察	11月27日 ~28日	7

2) 所内研修の開催

職員の今学びたい事について意見を集め、研修員会で検討し内容を決定した。ほぼ計画通りに実施することができ、明日からの実践に生かせる内容となった。

内容と人数	※職員参加率：78%	講師
① 職業倫理について	22人	清水事務局長
② よりよい会議を行うために ～誰にでもできるファシリテーション～	23人	ウェルビーデザイン理事長 篠原氏
③ 感染症対策(食中毒を中心に)	25人	木下看護師
④ 接遇マナーについて	25人	アムリプラザ 取締役 坂井氏

⑤ 利用者・家族からの要求や苦情と日常支援	20 人	北星学園大学 教授 中村氏
⑥ 介護サービス事業者が地域に果たすべき役割	23 人	あったかプランとうべつ 管理者 木村氏
⑦ 自動車の安全運転と交通安全	25 人	京極駐在所長 澤田氏
⑧ 苦情相談の対応	26 人	保村介護支援専門員
⑨ 認知症ケア研修 ユマニチュードについて	22 人	山本・本田介護福祉士

4. 広報啓発活動

1) 「ふれあい」の発行

・26年度実績 4回（6月/10月/1月/4月）

編集委員会を開催し、内容を議論して発行している。社協の活動をわかりやすく伝える内容となるよう、多くの意見をききながら改善していきたい。今後は広報誌だけでなく、インターネットを活用した広報も取り組んでいく。

2) ふれあい広場の開催

多くの団体や、住民の協力により例年どおりの実施ができた。

20回以上開催を重ね、恒例事業として定着しているが、同じような催し物が多く形骸化は否めない。27年度は目的と効果を今一度検証した上で取り組んでいく。

実施企画	協力団体
<ul style="list-style-type: none"> ・リサイクルバザー ・道内福祉施設製品販売 ・かき氷販売 ・作業所手作り製品販売 ・福祉用具展示 ・ポップコーン等の無料提供 ・介護食試食 ・体力測定、健康チェック ・人形すくい ・吹き矢 ・赤い羽根共同募金（ファイターズ、募金パッチ） 	<ul style="list-style-type: none"> 京極町女性団体連絡協議会 京極町身体障害者福祉協会 京極町民生委員協議会 京極町母子寡婦会 合同会社夢の匠
※実行委員会～8/11 10名出席	

3) ほかほかまつりの開催

福祉と健康のまちづくりを目的に、町内の保健・医療・福祉・住民の協働により、14回目の開催となった。実行委員のほかに、多くの団体やボランティアの協力で実施し今回も400名を越える参加者でにぎわったが、会場が狭くなって安全面での課題も上がっている。また、会場内に設置した来場者アンケート協力が15件しかなく、目的達成の検証がされていないため、今後の課題とする。

実施企画	協力団体
<ul style="list-style-type: none"> ・抹茶、100円ラーメン、おにぎり、ジュース、焼き鳥 ・わたあめ無料提供 ・フリーマーケット ・中学企画コーヒーゼリー ・キッズダンス ・講演会（特殊詐欺被害の防止） ・木工クラフト ・とくいの銀行 ・講演 ・ひまわり筋力 ・脳力健診 ・骨密度測定 	<ul style="list-style-type: none"> 京極町 ひまわりクリニック 慶和園 羊蹄グリーン病院 民生委員協議会 健康推進員協議会 雅会 京極町飲食店組合 京極町林友会 京極町母子寡婦会 京極中学校
※実行委員会4回開催～開催日（人数）	
9/5（22）、9/18（17）、10/15（27）、12/2（20）	

5. 寄付金・会費について

寄付金については、大口の寄付があったため昨年より大きく増額しているが、件数は減っている。賛助会費、一般会費についても減額という結果だった。寄付金や会費がどのように使われているか、広報だけではまだ住民に伝わっていない課題が残っている。継続した協力を得るために、依頼時に事業実績を同封するなどして、社協活動を知り理解してもらう取り組みを実施する必要がある。

《寄付金収入》

平成 25 年度		平成 26 年度	
2,287,623 円	38 件	20,770,129 円	33 件

《賛助会費収入》

区分	平成 25 年度		平成 26 年度	
個人	279,000 円	56 件	276,000 円	53 件
法人	306,000 円	38 件	291,000 円	37 件

《一般会費収》

平成 25 年度		平成 26 年度	
577,000 円	1,154 戸	568,000 円	1,136 戸

6. 共同募金事業

例年通り 10 月から赤い羽根共同募金、12 月から歳末たすけあい募金を展開し、今年度も目標額に達することができたが、募金実績としては昨年よりどちらも数万円下回る結果となった。今回の地域福祉実践計画策定で共同募金について話し合われたが、寄せられた募金がどのように使われているか住民に伝わっていないのが大きな課題であることがわかった。今後はそこにむけて取り組んでいく必要がある。理解され、効果的な助成を実施することで、募金が集まるという良いサイクルを作り出していきたい。

	赤い羽根共同募金	歳末たすけあい募金
募金実績	1,284,358 円	1,234,795 円
助成結果	福祉関係団体助成 4 団体 母子父子家庭修学旅行助成 6 名 ボランティア協力校補助 2 校 広報ふれあい発行 年 4 回 緊急通報システム設置事業	支援金配付 78 件 デイサービスクリスマス会 除雪ボランティアイベント 2 回 在宅サービス利用者昼食会 2 回 ほかほかまつり ボランティアセンター運営費 地域福祉実践計画印刷費

7. 各種資金・助成金の支給

奨学資金については高校生1名を新規で指定している。修学旅行助成事業は母子父子家庭を対象に小中学生の修学旅行の際に助成してきたが、母子家庭に関して別途費用助成があることから、今後について見直しを図る。愛情資金は、生活保護世帯と寡婦世帯への貸付を実施。応急的な貸付のため、短期間での完済となっている。また、相談はあるが返済能力が少ない、保障人が立てられないなどの理由により、貸付が実施できない相談については、継続的に相談に応じ他制度の検討や関係機関との連携により対応している。滞納ケースについても定期訪問を実施し、継続的な償還の支援を実施している。

名称	金額	件数
愛情資金貸付	70,000 円	2
奨学金	180,000 円	1
修学旅行助成金	96,000 円	6
生活福祉資金	—	—

○償還終了	5 件
○償還継続中	
愛情資金	14 件
生活福祉資金	3 件
○相談のみ	2 件
○償還困難・滞納等により	
定期訪問実施ケース	10 件

8. 福祉センター・コミュニティセンター管理

社協事業も増え、申込みが重なり調整を行うこともある。多様な利用により安全面での課題があがった。集会室の絨毯で転倒事故が発生しているため、27 年度は集会室床の修繕工事を実施する。

1) 設備の保守管理

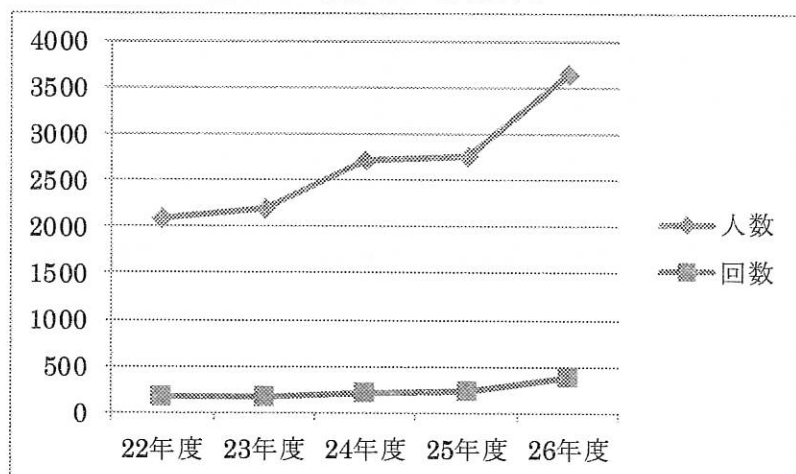
- ・電気設備 6 回
- ・消防設備 2 回
- ・自動ドア 4 回
- ・ボイラー室機械設備 1 回
- ・専門業者による清掃 1 回

2) 設備等の修繕や購入

- ・機械室
- ・顕熱交換機故障修理
- ・非常誘導灯電池交換
- ・消防設備不良修繕
- ・電話回線工事

	研修室	集会室	ボランティア室
回数	249 回	126 回	3 回
人数	2,494 人	1,151 人	19 人
主 な 利 用 目 的	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会会議 ・住民団体による各種活動 ・各団体会合（民協・健康推進員・老人クラブ ・母子会・身障協会・ヘルパーSUNの会ほか） ・社協事業（役員会、イベント、スカット会、所内研修他） 		

《利用実績状況（合算）》



地域福祉推進係

重点目標

1. 世代間交流、住民参加を意識した小地域ネットワーク活動の推進。
2. 高齢者などの生活ニーズを把握し、生活支援サービスの見直しと熟成に取り組む。

1). 重点目標に関して

1.1.について

(1) サロン運営事業

居場所づくり、閉じこもり予防、元気づくりなどを目的とし、まちの中心である商工会館を拠点に自分の足で歩いて参加できるターミナル型サロンの継続開催を行った。歩行能力の維持、向上を目的としたふまねっとサロン、運動に自信がなくても参加できるニューススポーツサロンでは、ふまねっとサポーターを中心としたボランティアによる運営が促進され、サロン以外の事業へのボランティア参加も行うなど役割意識が養われつつある。

また、手芸などの趣味活動による交流の寺小屋サロンがはじまったことで、これまで福祉と接点のなかった参加者や若い世代の関わりも増えてきている。



① サロン事業実績

事業名	開催日時	参加数	内 容
ふまねっとサロン	4月～3月(21回)	実人数 30名 延人数 387名	交流の機会と健康づくり
ニューススポーツサロン	4月～3月(20回)	実人数 45名 延人数 471名	生涯スポーツによる交流と健康づくり
寺小屋サロン	11月～3月(14回)	実人数 22名 延人数 175名	手芸による交流と居場所づくり

② サポーターの事業参加実績

事業名	開催日時	参加数	内 容
小学生チャレンジ教室	6月23日	サポーター2名	小学生チャレンジ教室(吹き矢)講師役
後志ボランティア研修会	11月16日	サポーター4名	レクリエーション研修の参加
在宅サービス昼食会	12月8日	サポーター5名	吹き矢を使用したアイスブレイク講師役

③ ボランティア 14名 (内ふまねっとサポーター有資格者数 12名、サポーター数前年度より2名増)

(2)福祉委員協議会との協働

9月に福祉委員協議会を開催。参加町内会は16町内会であった。福祉サービスを知っている身近な相談者としての役割を担って頂くために、京極町の福祉サービスを紹介。また、各福祉委員と除雪に関する意見交換を実施し、京極町における除雪について検討している。10月には全町内会長を訪問し、各町内会の除雪希望世帯調査を依頼。調査結果をもとに各町内会の福祉委員と意見交換を行い、各町内会における除雪の実態把握を行った。特に心配な世帯については、都度意見交換や会議の場を設け、対応や対策について検討している。次年度は日常生活における見守りの仕組みづくりにおいて、より具体的な取り組みを図る。

2.について

(1) 福祉有償旅客運送

年間で事故等のトラブルもなくサービスを実施することができた。移送サービスは昨年度よりも利用実績が減少しています。事業の多様化に伴い、サービスの見直しが今後の検討課題となっている。

透析移送サービスについては、祝日以外は予定通り運行。利用者については、疾病により長期入院をされる方が多く目立った。利用者の状態に合わせ、車いすで対応する等、利用者の体調に配慮した対応を心掛けた。

サービス名	回数	登録者数	新規登録	利用終了	前年対比	
					回数	人数
在宅高齢者等移送サービス	142回	6人	0名	5名	±0	▲5
透析移送サービス	313回	9人	0名	2名	±0	▲2
訪問介護	612回	回数のみ記載			▲86	
合計	754回				▲86	

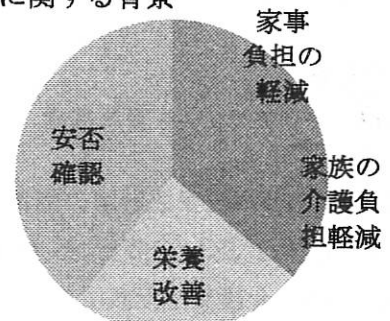
(2) 京極町ふれあい配食サービス

26年度より利用料が400円から500円へ変更となった。昨年度と比べ、家事負担の軽減よりも安否確認に重点を置く利用者が増加。配達員からの報告でも異常を早急に察知し、大事に至らずに済んだ事例もあった。

年度末には、更新制の導入を行い、多角的な観点から自立支援を推進するための要綱の見直しを行った。

今年度も28年度の総合事業を見据えた見直しを検討する。

利用目的に関する背景



月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
食数	186	197	193	192	193	175	201	188	199	152	149	134
人数	18	18	17	18	19	18	18	18	17	15	14	13

(3) 軽度生活援助（除雪サービス 利用世帯 36 世帯）

今シーズンは 34 世帯（一昨年度 36 世帯）の除雪対象世帯に対し除雪ヘルパーの登録は 16 名であった。（一昨年度 16 名）。除雪ヘルパーの中で、特に玄関前を担当するヘルパーは年々減少しており、ヘルパーの確保は今後の大きな課題となっている。今シーズンから「町内会協力体制システム」（町内会で同じ町内会の除雪の支援が必要な世帯を支える仕組み）が開始され、今シーズンは 1 世帯のみこのシステムを活用したが、今後はこのシステムを活用しヘルパーの負担軽減を目指す。

	12 月	1 月	2 月	3 月
実施世帯(世帯)	22	22	21	21
時間数(時間)	296	247	174	99
金額(円)	355,200	296,400	208,800	118,800

(4) 京極町在宅高齢者電話サービス（利用世帯 4 世帯）

施設入所や死亡により利用人数が若干名減少。注意すべき事象（詐欺被害、感染症の流行）について情報を提供しながら安否確認に取り組んでいたが、サービスの位置づけが不明確となっており、今後は内容等についての見直しが必要となっている。

(5) 京極町在宅高齢者緊急通報システム運営事業（利用世帯 15 世帯）

4 件の新規利用と 5 件の利用終了があった。昨年度から引き続き協力員への訪問と、協力員の更新に関する調査を実施している。対象の明確化や選考基準の追加等、要綱の見直しが必要となっており検討を進めている。

(6) 昼食会（共同募金助成事業）

今年度の夏は緊急通報システム利用者に特化した昼食会を開催し、25 名の方が参加。冬はこれまで通り在宅福祉サービス利用者を対象に開催し、17 名の利用者が参加。在宅栄養士の方を講師に招き講話による食の勉強や、スポーツ吹き矢による口腔機能向上を行った。

2. その他

(1) ボランティアセンター運営事業

第 5 期地域福祉実践計画の策定に伴い、ボランティアメニューの策定に向けた取り組みとして、自分のできることを預ける「とくいの銀行」と、65 歳以上の 1 号被保険者が福祉関係のボランティアを行うことでポイントが付与される介護支援元気ポイント事業を発足させ、ボランティア養成講座を開催している。

今後は、地域については、「とくいの銀行」などを活用し、楽しみながらボランティアに触れる機会づくりの促進と、町内のボランティア団体の取り組みの紹介。介護支援元気ポイントについては活動の円滑なマッチングと勉強会の実施を行う。

除雪ボランティアイベントについては、参加者が増加傾向にあり、特に今年の 2 回目は過去最高人数となったことで今後は安全面も考慮しながら、活動場所、日程の検討も行う。

① とくいの銀行で集めた預金(できること)

10月18日ほかほかまつり ATMの設置 預金者 46名 預金件数 81件

② 介護支援ボランティア養成講座開催

2月23日 カリキュラムⅠ 22名

3月23日 カリキュラムⅡ 24名 (H27.5.1登録者数 31名)

(ボランティアの活動予定拠点)

活動拠点	社協	介護予防	デイス	慶和園	GHしらかば
ボランティア	17名	6名	15名	18名	4名

③ 慶和園でのボランティア活動調整

・通年(毎月第4土曜日) 慶和園喫茶なごみ 中学生ボランティア延べ 108名

・6月 環境整備ボランティア 4名 慶和園入所者外出支援ボランティア 3名

・7月 環境整備ボランティア 5名(共楽クラブ)5名

・10月 環境整備ボランティア 4名(共楽クラブ)4名



④ 除雪ボランティアイベント開催(共同募金助成事業)

1月17日 除雪ボランティア 70名

2月14日 除雪ボランティア 168名・炊き出しボランティア 18名

⑤ その他

・バリアフリー授業の開催 京極小学校4年生 31名

・エコキャップ回収事業 55万496個(ポリオワクチン約668人分)

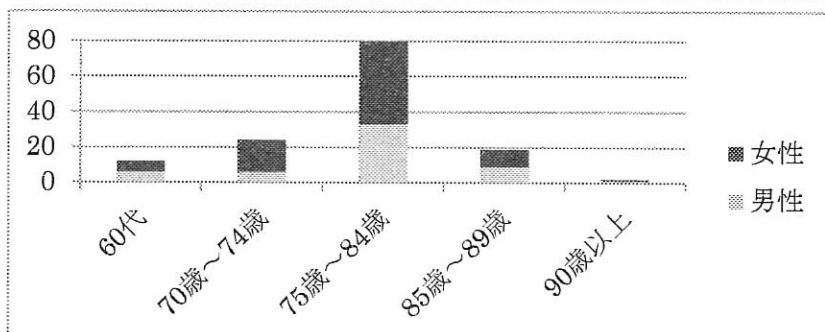
・プルタブ回収事業 回収後京極中学校へ

(2) 団体事務局支援 共楽クラブ(本会・松葉会・ゲートボール部会・パークゴルフ部会)

身体障害者福祉協会・ヘルパーSUNの会・母子寡婦会

・京極町共楽クラブ(会員数 140名)

8名の会員が退会され、5名の方が新たに入会した。退会の主な理由は病気や死亡となっており、会員の高齢化が顕著に表れている。また、若年層の入会率は依然伸びていない現状となっており、近年は会員増加、役員の世代交代、若手リーダーの育成が大きな課題となっている。各部会に関しても同様の課題があり、一人の役員への負担は年々増加傾向にある。



・京極町身体障害者福祉協会(会員数 56 名)

パークゴルフ、福祉大会・スポーツ大会、山麓研修会、研修旅行など町内外を通した活動を行った。2 名の会員が亡くなられたが、5 名の方が新たに入会するなど、役員の努力もあり会員は微増している。活動時にかかる取りまとめや、集金など役員の負担は大きく、担当地区の分担などが課題となっている。

・ヘルパーSUNの会(会員数 19 名)

除雪ボランティアイベントへの炊出し協力、在宅サービス利用者への絵手紙作成、デイサービスバスレク事業の付添ボランティアなどヘルパー資格を活かした活動を中心に行ってきた。課題は会員の多くが仕事をしており、両立しながらの活動が難しく、役員の負担が増していることである。

・京極町母子寡婦会(会員数 13 名)

町内交流会、後志地区母子寡婦研修会、春季研修旅行などの行事の他、ふれあい広場やほかほかまつりなどの出店出店など社協事業への協力を行ってきた。今後は活動の PR と共に新規会員の増加が課題となっている。

(3) 支援困難ケース対応への支援(対応件数 4 件)

セルフネグレクトへの生活支援 1 件(町外へ転居のため終了)、ギャンブル依存症者の通院・生活支援 1 件(生活支援員として対応継続中)、地域から孤立化している独居高齢者への対応、知的障がい世帯への入り口支援

(4) 各種会議等への出席等

地域ケア推進会議、栄養士連携協議会、未来へつなぐ夢基金プロジェクト、交通部会等

京極町生活サポートセンター

重点目標

1. 京極町生活サポートセンター(後見実施機関)の立ち上げを行う。

1). 重点目標について

平成 24 年度から権利擁護体制構築を目的に、ようてい山麓 7 か町村と黒松内町の権利擁護担当課により市民後見人養成等推進事業検討会が開催され権利擁護センターの設置について検討が重ねられてきた。

平成 26 年 10 月から、この検討会の決定を基にようてい山麓 7 か町村と黒松内町を支援区域とした「京極町生活サポートセンター」の開所に至っている。(別紙1参照)

ただし平成 29 年 9 月までのむこう 3 年間は上記の広域実施となるが、平成 30 年 3 月 31 日までに各町村で成年後見制度利用支援体制を構築し実施することとなった。

(1)体制整備について

運営形態:京極町委託事業

運営資金:安心生活創造推進事業

(2)業務内容

- ①成年後見制度に関する相談受付(周辺法律・制度に関する相談も受付)
- ②成年後見制度に関する申立支援(本人・親族・町村長)
- ③成年後見人等の受任(法人後見として受任する)
- ④市民後見人の養成並びにフォローアップ研修の実施
- ⑤広報・啓発活動の実施
- ⑥日常生活自立支援事業(道社協委託事業)の実施。
- ⑦その他 関係機関からの依頼による支援の実施

※⑥⑦については京極町内のみ対象

(3)人員配置について

センター長:清水 耕策(兼務)

専門員:駒田 拓朗

事務員:天沼 みゆき

司法アドバイザー:坂口 亜子(坂口亜子司法書士事務所)

生活支援員:阿部 啓(兼務) 藤原 実菜子(兼務) 尾形 日出麿(理事)

(4)会議の整備状況について

・サポートセンター運営会議

目的:官民協働の事業としてサポートセンター業務の進捗を共有し、活動方針を検討する。

・法人後見運営委員会(随時開催)

目的:申立案件について京極町社会福祉協議会が成年後見人等の候補者になるか否かの検討を行う。

2) 活動内容の詳細について

(1) 成年後見制度のに関する相談受付(周辺法律・制度を含む)

(2) 成年後見制度に関する申立支援(本人・親族・町村長)

開所後から9件と、予想よりも多い件数となった。

どの町村もサポートセンター開所前から対応に苦慮していたケースが相談につながったことが要因と考えられる。

また、述べ稼働回数について、サポートセンター職員が相談対応に不慣れであったこと、案件ごとに課題が多様であったため1件当たりの稼働回数が多くなっている。

初回相談者は役場担当者、社協、地域包括支援センター、ケアマネジャーと専門職のみとなっている。

町村名	相談件数	延べ稼働回数
京極町	4	7
真狩村	1	45
二セコ町	2	37
喜茂別町	1	20
黒松内町	1	14
留寿都村	0	0
倶知安町	0	1
蘭越町	0	0

(3) 成年後見人等の受任(法人後見として受任する)

平成27年3月末現在、2件成年後見人を受任している。

ケース番号	町村名	分類	類型	内容
1	真狩村	精神・高齢	後見	財産管理・身上監護
2	二セコ町	高齢	後見	相続・金銭管理・身上監護

(4) 市民後見人の養成並びにフォローアップ研修の開催

サポートセンター主催としての養成研修・フォローアップ研修会の開催はなかった。

市民後見人の名簿については各町村で管理されている。

※京極町の市民後見人養成研修了者:9名(うち地域住民3名)

(5) 広報・啓発活動の実施

日にち	方法	内容	対象
平成26年8月20日	報告会	京極町生活サポートセンター機能説明会	行政担当者 社協担当者
10月8日	広報「ふれあい」	京極町生活サポートセンター開所のお知らせ	地域住民
平成27年1月28日	広報「ふれあい」	エンディングノートの活用について	地域住民
2月17日	地域ケア推進会議	京極町生活サポートセンターの機能と活動事例について	町内福祉関係者

(6)日常生活自立支援事業(道社協委託事業)の実施。

契約案件

分類	支援内容	支援回数	備考
知的障がい	通帳・印鑑預かり 金銭出入金同行・代行	週2回 うち1回は自動送金	ギャンブル依存症

相談案件

分類	相談内容	備考
知的障がい	年金使用が不明確。	行政からの相談
高齢	日常の金銭管理支援	本人意向なし
その他	日常の金銭管理支援	担当者と調整中。

(7)その他 関係機関からの依頼による支援の実施

ケース番号	案件	チーム形成	備考
1	専門機関への定期受診引率 月1回から2回 (道立精神保健福祉センター)	社協 振興局 住民福祉課 道立精神保健福祉センター	ギャンブル依存症
2	心理検査引率 (倶知安厚生病院)	社協 振興局 住民福祉課	独居男性
3	就労支援 (20年以上未就労の方)	社協 就労支援センター 住民福祉課 民生委員	

3)次年度へ向けての課題として

(1)各町村における権利擁護に関する協働体制を構築する。

これまで後見ニーズを共有している町村とは行政、社協、当センターが協力しながら活動をしているが、まだ後見ニーズが発掘されていない町村においては協働体制が全くない状態と言える。次年度以降は後見ニーズが発掘されていない町村との関係づくりも意識した活動が必要と考えられる。

(2)専門家・住民の多角的な視点を活用した権利擁護体制を確立する。

被後見人等へより質の高い権利擁護が実践できるよう、法人後見運営委員会において業務履行報告を行い、担当者だけでなく多角的な視点で透明性の高い業務履行体制を目指す必要性を感じた。

(3)権利擁護に関する相談対応能力を強化する。

今年度は相談について一つずつ調べながら対応であったため、稼働回数が増加してしまった

現状がある。次年度以降は相談フローチャートの作成や周辺法制度の知識習得を行い、より合理的かつ深化できる相談を目指すことが求められる。

(4) 多様な相談に対応するため社会資源の把握を行う。(心配事相談機能の整備)

今年度は特に就労支援の調整を行うに当たり、小樽市就労支援センター「ひろば」との連携があった。平成 27 年度 4 月からは生活困窮者自立支援法の施行もあり、権利擁護と関連深い内容となっている。相談支援において必須であるネットワーク体制の構築の第一歩として幅広い社会資源調査を行うことが必要と考える。